

くだもの 商店街



さくらんぼ新品種「ジュノハート」のPR

さくらんぼは、初夏を告げる果物として根強い人気があります。県内では南部町を中心とした三八地域が主産地ですが、近年では弘前市や青森市など、県内各地で栽培されています。

りんご研究所（県南果樹部）では、果実が大きくて見栄えが良く、甘みが強い新品種「ジュノハート」を育成しました。種が離れやすく食べやすいうえ、日持ちも長いので贈答用や観光果樹園にも適します。

苗木販売が平成27年秋から始まりました。

りんご研究所



「ジュノハート」はこんな“さくらんぼ”です！

両親は、果肉の硬い「紅秀峰」と大玉の「サミット」

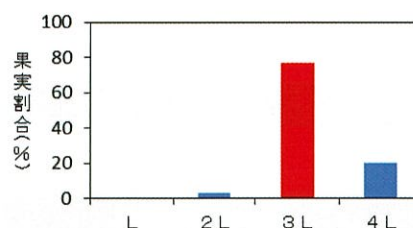


母親「紅秀峰」



父親「サミット」

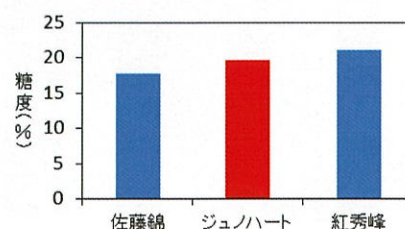
大玉（3L：横径28mm以上）です



収穫時期は「佐藤錦」後の7月上旬～中旬

品 種	6月			7月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
紅さやか						
佐藤錦						
ジュノハート						
紅秀峰						
サミット						
南陽						

甘さは「佐藤錦」や「紅秀峰」並みです



「ジュノハート」開発ストーリー

「ジュノハート」は五戸町扇田にある“りんご研究所（県南果樹部）”で育成されました。約1ヘクタールのさくらんぼ実生園があり、周りは山林に囲まれていました。

平成17年5月4日、さくらんぼが咲き誇るなか、扇田地区に大規模な山林火災が発生し、多くの実生が焼かれました。火の手は「ジュノハート」の手前3本の実生まで迫ったものの、「ジュノハート」はかろうじて被害を免れました。町内外の住民らが多数がかけつけ、みんなが必死に山林火災の消火活動をしてくれたのです。

「ジュノハート」は大火災を免れ、生き残ったことから、何か「幸運」を持ち合わせているようです。「ジュノハート」の命名は、「幸運」を持ち合わせていることや、関わる人達への幸せの願いも含め、「家庭の幸福を司る女神（ローマ神話のJuno）」と果実がハート形であることに由来します。もし、あの時、火災で焼かれていたら、品種として世の中に出ることはなかったかもしれません。

夏秋（かしゅう）いちご「なつあかり」

国産のいちごは、一般的に12月～翌年5月に生産され、夏秋期には、いちごを主にアメリカから輸入しています。6～11月に国内で出回るいちごは、生食では酸味が強く、ケーキ等に使用する業務用が中心です。

東北農業研究センターが育成した「なつあかり」は、特に食味が優れ、つや、香りが良いことからレストラン、ケーキ店から高く評価されています。野菜研究所と生産者が協力して栽培方法などを検討し、電照処理を取り入れることで、夏秋期の安定した生産ができるようになってきました。野菜研究所



いちご「なつあかり」の生産者紹介



木村芳孝農園【八戸市】

木村さんは「なつあかり」栽培のパイオニア。東京の有名ケーキ店で使用され、幻のメニューと称された「なつあかり」を生産しています。

DATA

主な出荷先：八戸中央青果 株式会社
〒039-1161 八戸市河原木字神才7-4
TEL：0178-28-8585 FAX：0178-28-8814



竹林農園【三戸町】

竹林さんの「なつあかり」は食味・つやが抜群。つる付で傷が付かないように収穫されたいちごは、地元ケーキ店で愛されています。

DATA

主な出荷先：八戸中央青果 株式会社
〒039-1161 八戸市河原木字神才7-4
TEL：0178-28-8585 FAX：0178-28-8814